

令和7年度屋久島世界遺産地域モニタリング調査等予定表

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要	調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき 具体的な目標	モニタリン グ項目	ID	評価指標	評価基準		初回	前々回	前回	今回	次回		
O 基本的環 境情報が 定期的に 取得され ているこ と	気候変動 などの影 響を把握 するた めの基礎 的データ が収集さ れ、各デ ータの変 動が監視 されてい る状態	気象デー タ	1	気温、湿 度、地 温、降水 量等の観 測・測定 値	観測・測 定データ が継続的 に収集・ 整理さ れ、欠測 も少なく 傾向が把 握されて いること	「気象データの測定」 調査項目: 気温、湿度、地温 調査地: 西部地域の大川の滝(標高0m)、小楊 子林道(標高300m)、花山歩道(標高500m、 700m、900m、1200m)の5箇所 ※1400m、1600mは未設置	H23.3、11 H24.7 H25.3 H26.11 H27.2 (花山) H28	R5	R6	R7	R8	環境省	毎日(10分毎) ※ただし、 機器不調で気 温、湿度のデ ータを今まで 収集できてい ない。
						「気象データの測定」 調査項目: 地温、土壌水分 調査地: ヤクスギランド(標高1000m)、淀川登 山口(標高1300m)の2箇所	H23.3 H24.1、7 H25.3 H26.10 H27.5 H28	R5	R6	R7	R8	環境省	毎日(10分毎) ※地温のみ ※故障がち
						「気象データの測定」 調査項目: 気温、湿度、降水量、地温、土壌水分 調査地: 中央山岳部の新高塚小屋(標高 1500m)の1箇所	H23.7 H24.3、7 H25.3 H26.10地 H27.12 H28	R5	R6	R7	R8	環境省	毎日(10分毎) ※雨量計故障箇所あ り
						降水量: 永田、吉田、上屋久町、屋久 島事務所、安房西、栗生、屋久町、平 内の8箇所	H13.4	R5	R6	R7	R8	鹿児島県	毎日(10分毎) 河川課・砂防課観測 データ管理
						気温(屋久島北部側(標高600m)、屋 久島南部側(標高420m)、屋久島中 央部の淀川登山口(標高1300m)の3 箇所)	H21	R5	R6	R7	R8	林野庁	毎日(10分毎)
						降水量(宮之浦(標高5m)、宮之浦林 道(標高510m)、白谷(標高580m)、 白谷雲水峡(標高630m)、小杉谷(標 高680m)、永田カンカケ岳付近(標高 730m)、ヤクスギランド(標高1000 m)、大川林道(標高1020m)、淀川登 山口(標高1380m)、黒味岳頂上付近 (標高1800m)、屋久島南部側(標高 420m)の11箇所)	H8	R5	R6	R7	R8	林野庁	毎日(10分毎)
						屋久島観測所(小瀬田)、尾之間		—	—			気象庁	毎日(10分毎) 今までは本資料に記 載されていない

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
		大気組成、水質測定	2	降下ばいじん量の測定値	測定データが継続的に収集・整理され、欠測も少なく傾向が把握されていること	降下ばいじん量:屋久島町営グラウンド(宮之浦), 屋久島町消防団中央分団宮之浦班消防詰所(宮之浦), THE HOTEL YAKUSHIMA OCEAN & FOREST(宮之浦)の3箇所	S45	R5	R6	R7	R8		鹿児島県	毎月測定
			3	pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数の測定値	測定データが継続的に収集・整理され、欠測も少なく傾向が把握されていること									
						水質測定(pH,DO,BOD,SS,大腸菌数):宮之浦川宮之浦橋地点, 安房川安房橋地点, 永田川永田橋地点, 栗生川栗生橋地点の4箇所	H13	R1	R4	R7	R10		鹿児島県	3年に1回(4箇所同時)
IA スギ天然林が適切に保護・管理され、天然スギが持続的に世代交代していること	スギ天然林に代表される優れた自然景観及びその構成要素に大きな変化が見られず維持されている状態	スギ天然林の現状	4	スギ天然林の立木密度	スギ天然林の立木密度が大きく減少していないこと	空中写真を用いた天然スギの個体数をカウントし、スギの分布密度を推定、経年変化を把握	H6	H21	R2	—	R12		林野庁	10年毎
		天然スギ林の動態	5	スギ天然林の種組成及び階層構造	スギ天然林の種組成及び階層構造に大きな変化がみられないこと	「原生自然環境保全地域における森林群集モニタリング調査」 調査項目:一定の大きさ以上の毎木調査 調査地:原生自然環境保全地域内の1箇所(標高1300mの地点に設定した1haの固定プロット)	S58.9	H4.10 H5.9~10	H24.9 H25.8~10	R8年			環境省	10年毎
						屋久島中央地域の垂直方向の植生モニタリング調査(標高1200m(遺産地域外隣接地)、1400m,1600m,1,775m,1,800m,1,936mのプロット6地点)	H14.9.12~ H14.11.6	H29	R4	—	R9		林野庁	
		著名ヤクスギ等の巨樹・巨	6	著名ヤクスギである個体	著名ヤクスギである個体	著名ヤクスギ等診断	H11	R5	R6	R7	R8		林野庁	

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
		巨樹・巨木の現状		巨樹の枝数、葉量、葉色、根茎の露出状況	巨樹の枝数、葉量、葉色、根茎の露出状況に人為的要因による著しい変化がみられないこと	縄文杉の経過観察調査 定点カメラによる樹勢及び下層植生の観測		H14.9～ H14.11 (経過観察)	R5 (経過観察)	R6 (経過観察)	R7 (経過観察)	R8 (経過観察)	林野庁	
ⅠB その他の優れた自然景観資源が人為的要因により劣化していないこと	その他の優れた自然景観資源が人為的要因により劣化していない状態	照葉樹林、針葉樹林、低木林から山頂部に至る景観等の優れた自然景観資源の現状	7	優れた自然景観資源の現況	優れた自然景観資源の規模、形態等に人為的要因による著しい変化がみられないこと	「モニタリング定点撮影」 調査項目: 定点からの写真撮影 調査地: 高盤岳展望台、ビャクシン岳展望台、鹿之沢小屋、石塚小屋直前岩場、太忠岳、愛子岳、新高塚避難小屋、烏帽子岳、宮之浦岳山頂、大川の滝、千尋の滝、第二展望台、翁岳、石塚山、七五岳、モッチョム岳、神山展望台、太鼓岩、高盤岳、黒味岳、尾之間の21箇所		H10(夏秋) H23(夏秋) H25(夏秋) H26(夏秋) H27(夏秋) H28(夏秋)	R5	R6	R7	R8	環境省	毎年 ※R1～ 2年に1回: 鹿之沢小屋、石塚小屋直前岩場、太忠岳、愛子岳、烏帽子岳、七五岳、モッチョム岳、尾之間
		地形変化(斜面崩壊等)	8	地形変化(斜面崩壊等)の現況	斜面崩壊等、景観の変化を伴う地形変化が把握され、人為的要因による著しい変化が見られないこと	島内巡視箇所(巡視時)、島内全域(衛星写真等活用時)			-	-			環境省 林野庁	適宜 新規追加
ⅡA 植生の垂直分布が維持されていること	植生の垂直分布に大きな変化が見られず健全に保たれている状態	植生の垂直分布の動態	9	群集、種組成及び階層構造	群集、種組成及び階層構造に大きな変化がみられないこと	「遺産地域における森林動態モニタリング調査」 調査項目: 一定の大きさ以上の毎木調査 調査地: 原生自然環境保全地域の林分別4箇所(標高300-570m、520-700m、1150-1200m、1300mに設定した固定プロット)		S58.9 H6.9		H25.9	R8年?	-	環境省	10年毎
						屋久島東西南北中央部の垂直方向の植生モニタリング調査(各地域の標高0m[田代ヶ浜・宮之浦・川原・大川]～愛子岳1235m[東部]・国割岳西ピーク1300m[西部]・烏帽子岳1600m[南部]・高塚山1396m[北部]・宮之浦岳1936m[中央部])		H11～	R5 (南部)	R6 (西部)	R7 (東部)	R8 (北部)	林野庁	東部(H13・18・23・28・R3) 西部(H11・16・21・26・R1) 南部(H15・20・25・30) 北部(H17・22・27・R2) 中央部(H14・19・24・29)

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要	調査年月日(記載可能なものに限り)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき 具体的な目標	モニタリン グ項目	ID	評価指標	評価基準		初回	前々回	前回	今回	次回		
ⅡB その他の特異な生態系や生物多様性が維持されていること	ヤクシカによる採食と森林植生の更新のバランスが保たれ、適切な管理と資源の有効活用がされている状態	ヤクシカの動態把握、被害及び利用状況	10	ヤクシカの生息密度	ヤクシカの生息密度が適正に保たれていること	「屋久島国立公園におけるヤクシカ適正管理方策検討」「屋久島国立公園におけるヤクシカ保護管理対策推進業務」 調査項目：糞粒数のカウント 調査地：屋久島全島の30地点	H20.11 H21-6.11 H27.10-11 H28.10-R2.10-11	R5(糞粒法18箇所実施)	R6(糞粒法18箇所実施)	R7(糞粒法18箇所実施)	R8(糞粒法18箇所実施)	環境省	3～5年毎 ※捕獲後の動態変化を詳しく見るため近年は毎年実施
						「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業」 糞粒法、スポットライトカウント法などによる密度調査(北東部、南部など)	H21	R4(糞粒法5箇所実施)	R5(糞粒法5箇所実施)	R6(糞粒法5箇所実施)	R7(糞粒法5箇所実施)	林野庁	環境省・県と調査箇所等の調整やデータの共有を図る。
						指定管理鳥獣捕獲等事業(【実施計画の策定】業務 糞粒法によるヤクシカの密度調査(屋久島全域))	H27	R5(糞粒法15地点実施)	R6(糞粒法15地点実施)	R7(糞粒法15地点実施)	R8(糞粒法15地点実施)	鹿児島県	環境省・林野庁と調査箇所等の調整やデータの共有を図る。
			11	地域ごとのヤクシカの捕獲頭数	捕獲頭数が適正な生息密度維持のために、寄与していること	狩猟捕獲等によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	H19	R5	R6	R7	R8	鹿児島県	
						有害鳥獣捕獲対策事業 農林業等に被害を及ぼすヤクシカの上屋久・屋久猟友会による捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	H23 2,164頭	R5 1,664頭	R6 1,525頭	R7	R8	屋久島町	国庫事業当初計画数値
						「職員実行」によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	501頭 (H22)	R5 17頭	R6 9頭	R7	R8	林野庁	
						「有害鳥獣捕獲事業」によるヤクシカの捕獲頭数、個体情報(場所、性別等)	H27	R5 125頭	R6 106頭	R7	R8	林野庁	
			12	ヤクシカによる農作物等被害及び利用状況	農作物等被害の増加がみられず、利用も進んでいること	農作物・林産物被害額、屋久島町狩猟者数、食肉等の利用状況を把握	初回調査年度は現在調査中	-	-	R7	R8	環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	毎年 新規追加
			13	ヤクシカによる植生被害及び回復状況	林床植生に過度な摂食がみられず、森林生態系の維持及び	「屋久島国立公園におけるヤクシカ適正管理方策検討」「屋久島国立公園におけるヤクシカ保護管理対策推進業務」 調査項目：植生保護柵内外の植生調査 調査地：各地に整備した環境省の植生保護柵(西部5、小杉谷4、安房1、高層湿原1)	H22.11 H23.11 H24.8 H25.9 H26.11-12 H28(14 R2	R5	R6	R7	R8	環境省	1～3年毎 ※別途九州大学が設置・調査している保護柵あり(安房3、ヤクスギランド2)

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
					適切な森林更新が期待されること	「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業」 植生調査プロット等を設定し被害状況を調査するとともに、防鹿柵(植生保護柵)設置箇所の柵の内外の調査プロットにおいて植生の回復状況等を調査(西部、北東部、南部など)		H21	R5	R6	R7	R8	林野庁	
ⅡB その他の特異な生態系や生物多様性が維持されていること	・希少種・固有種等の分布・生育状況が把握され、これらの種が1種も絶滅していない状態 ・侵略的外来生物等の生息状況が把握され、生態系への影響が及んでいない状態	希少種・固有種等の分布状況	14	林床部の希少種・固有種の分布・生育状況	希少種・固有種の生育地・生育個体数が減少していないこと	「屋久島における絶滅危惧種保護管理方策検討業務」「屋久島地域における国内希少野生動植物種保護対策検討業務」 調査項目:希少種・固有種の分布・生育状況調査 調査地:東部～南部地域において、希少種・固有種が集中的に分布する地点		H23 H24 H28(54地点) H30	R5	R6	R7	R8	環境省	5年毎のローテーションを想定
			15	ヤクタネゴヨウの分布・生育状況	ヤクタネゴヨウの生育地・生育個体数が減少していないこと	ヤクタネゴヨウ生育状況調査(西部地域[国割岳西側斜面・瀬切川左岸]、南部地域[破沙岳周辺・高平岳周辺]に設定しているプロットにおいて、植生調査及びヤクタネゴヨウ個体数の調査)		H11 (西部地域[国割岳西側斜面])	R1 (西部地域[国割岳西側斜面])	R6 (西部地域[国割岳西側斜面])	—	R11 (西部地域[国割岳西側斜面])	林野庁	
			16	ヤクシマザルの生息状況	ヤクシマザルの生息状況が定期的に把握されていること	・ヤクシマザルの個体数、出産率、集団、群構成等を把握 ・捕獲頭数(捕獲情報)を把握			—	—			京都大学野生動物研究センター 屋久島町など	毎年 新規追加
			17	沿岸域の生物多様性	沿岸域の生物多様性(サンゴ・ウミガメ等)が把握され保全対策に活用されること	・モニタリング1000によるサンゴ礁調査結果を把握 ・ウミガメの上陸、産卵状況を把握		○ウミガメ上陸・産卵状況(初回調査年度は現在調査中)	—	—	R7	R8	環境省 鹿児島県 屋久島町	毎年 新規追加
		侵略的外来生物等の増減や分布変化による生態系への影響	18	侵略的外来生物等による影響	侵略的外来生物等による生態系への影響が及んでいないこと	アブラギリの加害実態調査(屋久島固有種との競合関係、鳥類による繁殖実態調査) オキナワキノボリトカゲ、タヌキ等の侵略的外来生物等の生態系への影響等を把握		H23.9.30～ H23.11.7	—	—	R6.7.10～ R7.3.17	R11	林野庁	
									—	—			環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	新規追加

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称及びその概要					調査年月日(記載可能なものに限り)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準						初回	前々回	前回	今回	次回		
ⅡB その他の特異な生態系や生物多様性が維持されていること	湿原環境が自然の遷移に委ねられる状態	湿原（花之江河、小花之江河）の動態	19	湿原の面積	湿原の面積・変化が計測されていること	花之江河、小花之江河の湿原モニタリング調査(湿原区域の現地測量)	H9	H27	R2	R7	R12	林野庁					
			20	湿原の地形・景観	地形・景観の変化が調査・計測されていること	・ドローン撮影を行い、湿原地表面の起伏を把握 ・ドローン撮影画像から湿原植生の群落の分布位置・範囲を把握	R4	R5	R6	R7	R8	林野庁	毎年 新規追加				
			21	湿原の水収支	降水量や流出量など水分諸量が観測され、湿原の水収支が把握されていること	水位・流速、水温、泥炭層温度、地下水位(以上、花之江河及び小花之江河)、大気圧、温湿度(以上、花之江河のみ)を把握	R4	R5	R6	R7	R8	林野庁	毎年 新規追加				
			22	湿原の水深、土砂堆積深及び落ち葉溜まりの分布面積	低水期・豊水期における水(地表流)溜まりや土砂溜まり、落ち葉溜まりの分布面積の変化が把握されていること	花之江河、小花之江河の湿原モニタリング調査(流路と湛水区域図を作成し、現地にて流入土砂の堆積を特定し土砂量を把握)	H12	H27	R2	R7	R12	林野庁	5年毎				
		湿原生物群集の動態	23	植生群落の分布、種組成	湿原の乾燥化の指標とされるササの侵入が見られず、湿潤化した場所では、新たな湿原植生の生育が確認できること	花之江河、小花之江河の湿原モニタリング調査(湿原植生群落図を作成し、植生群プロットにおいて植生調査)、小花之江河植生保護柵設置及び植生調査	H9	H27	R2	R7	R12	林野庁	5年毎				

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
			24	ハベマメシジミの生息状況	生息に適した環境が形成され、確認個体数が減少していないこと	ハベマメシジミの採取を行い、個体数を計数して、直近の調査結果からの変化を把握		H18	R5	R6	R7	R8	林野庁	毎年 新規追加
Ⅲ 観光客等による利用状況や影響が定期的に把握され、適正利用が維持されていること	・利用が分散されている(場所や季節によって一極集中していない)状態 ・山岳部において屋久島らしい質の高い利用体験の提供がされている状態 ・山岳部の利用による植生等への影響が増加・拡大していない状態 ・外国人観光客の山岳部における利用状況が把握されている状態 ・携帯トイレや協力	利用状況	25	入込者数が継続的に記録され、傾向が把握されていること	入込者数が継続的に記録され、傾向が把握されていること	入島者数:屋久島空港, 安房港, 宮之浦港		S46	R3	R4	R5	R6	種子屋久観光連絡協議会(事務局:鹿児島県熊毛支庁)	毎年
			26	主要山岳部における登山者数	登山者数が継続的に記録され、傾向が把握されていること	「登山者カウンター」 調査項目:登山者数のカウント 調査地:荒川登山口～縄文杉、淀川登山口、高塚小屋～新高塚小屋の4箇所		H18 H23-6 H27 H28(9箇所)	R5	R6	R7	R8	環境省	毎日
			27	自然休養林における施設利用者数	利用者数が継続的に記録され、傾向が把握されていること	屋久島自然休養林(荒川地区及び白谷地区)		H7	R5 120,241	R6 119,737	R7	R8	林野庁	毎年
			28	里地における観光利用者数	利用者数が継続的に記録され、傾向が把握されていること	里めぐりなどの里地の利用者数を把握し、基準年と比較(基準年はモニタリング開始年や遺産登録年、コロナ禍前の年等とする。)		H24	-	-	R7	R8	屋久島里めぐり推進協議会(屋久島環境文化財団)	毎年 新規追加
			29	利用者負担の状況	収受額や収受率が継続的に記録され、収受率が増加傾向にあること	屋久島山岳部環境保全協力金・森林環境整備推進協力金の収受額や収受率を把握			-	-			屋久島山岳部保全利用協議会 レクリエーションの森保護管理協議会	毎年 新規追加

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
	金への理解が深まり携帯率や収受率が上昇している状態		30	携帯トイレ利用者数	2030年までに、宮之浦ルートを利用する登山者(人)の90%以上が携行すること、避難小屋宿泊者等の使用率が増加傾向にあること	「屋久島山岳部携帯トイレ導入推進」 調査項目: 特定の利用集中日において、アンケート調査により携帯トイレ携行率等を調査 調査地: 淀川登山口		H21 H23-6 H27 H28	R1 (携行率 &使用率 調査)	R2	R8年?		環境省	1~3年毎
			31	レクリエーション利用や観光業の実態	観光関連に係る基本的な情報が継続的に収集され、傾向が把握されていること	調査項目: 観光客の属性や利用形態及びガイドツアーの実態等の基本情報の把握 調査地: 屋久島全域		H7 H15	H27	R2	R8?		環境省	5~10年毎
			32	主要山岳部における質の高い利用体験の提供	利用体験ランクに見合った利用がなされていること	各ランクに見合った利用であるかを評価するため、登山経験、行程、装備等をヒアリングやアンケートにより把握			-	-			環境省	5年毎 新規追加
			33	利用に伴うリスク	利用に伴うリスクが増加していないこと	利用者が危険と感じた、または実際に転倒などのケガをした場所やその要因を聞き取りや現地調査により把握			-	-			屋久島山岳部保全利用協議会など	毎年 新規追加
			34	遭難/怪我等の実態	山岳部における遭難/怪我等の件数が増加していないこと	山岳部での遭難・怪我の件数、遭難要因を把握			-	-			屋久島警察署 屋久島遭難対策協議会	毎年 新規追加

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
			35	原生性やその他の自然体験に対する満足度	屋久島の原生性やその他の自然体験に対する利用者の期待値と満足度が維持されていること	屋久島の原生性やその他の自然体験に対する利用者の期待値と満足度をアンケートにより把握			-	-			環境省	5年毎 新規追加
			36	施設整備・管理の状況	自然環境を損なわず、安全に配慮した施設整備や管理がなされていること	・施設(木道、階段、東屋、避難小屋、山岳トイレ[バイオトイレ、TSS、携帯トイレブース]等)の整備・管理状況を把握 ・し尿運搬に係る運搬量等の実績を記録			-	-			屋久島山岳部保全利用協議会など	毎年 新規追加
			37	施設利用率・満足度	施設利用率が記録され、施設整備や管理の満足度が低下していないこと	施設の利用率や施設整備や管理に対する利用者の満足度、利用した/しない理由をアンケートにより把握			-	-			環境省	5年毎 新規追加
			38	宿泊施設収容可能人数	宿泊施設の収容可能人数が継続的に集計され、傾向が把握されていること	宿泊施設情報等から屋久島全体の収容可能人数を把握			-	-	R7	R8	鹿児島県熊毛支庁	毎年 新規追加

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
			39	島内交通の状況	タクシー保有台数等の島内交通の状況が継続的に記録され、傾向が把握されていること	タクシー保有台数、レンタカー事務所数、バス運行便数等を統計情報等から集計して把握			-	-	R7	R8	鹿児島県(タクシー、レンタカー) 屋久島町(バス)	毎年 新規追加
			40	インバウンドの状況	外国人観光客の利用状況が継続的に調査され、傾向が把握されていること	屋久島全域において外国人利用状況を聞き取りやアンケート等により把握			-	-			環境省 鹿児島県 屋久島町 レクリエーションの森保護管理協議会	1～5年毎 新規追加
			41	ガイド事業者数	ガイドの事業者数・人数等が継続的に集計され、傾向が把握されていること	ガイド事業者数、ガイド部会会員数、公認ガイド数等の把握の他、ガイド事業者数に占める公認ガイドの割合を集計して把握			-	-			屋久島町エコツーリズム推進協議会	毎年 新規追加
			42	林業による森林利用の状況	民有林、国有林の素材生産量が継続的に記録され、傾向が把握されていること	民有林と国有林の素材生産量(材積)を統計情報等から集計して把握			-	-	R7	R8	鹿児島県(民)林野庁(国)	毎年 新規追加
		利用による植生等への影響把握	43	登山道周辺の荒廃状況、植生変化	登山利用に起因する周辺植生の衰退がみられず、荒廃	「登山道沿いの植生モニタリング」調査項目: 定点からの写真撮影 調査地: 屋久島中央部登山道沿い計8箇所 (宮之浦岳ルート7箇所、永田岳ルート1箇所)		H22(秋) H23-5 H26 H27 H28	R5	R6	R7	R8	環境省	毎年

屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画との関係						調査等の名称 及びその概要		調査年月日(記載可能なものに限る)					調査実施機関	備考
管理目標	目指すべき具体的な目標	モニタリング項目	ID	評価指標	評価基準			初回	前々回	前回	今回	次回		
					箇所が増加・拡大していないこと	「登山道沿いの植生調査」 調査項目: 登山道の植生調査 調査地: 屋久島中央部登山道沿い計8箇所 (宮之浦岳ルート7箇所、永田岳ルート1箇所)		H22(秋)		H28	R8年?	-	環境省	5年毎
						行政機関による巡視やガイド部会による登山道パトロールなどにおいて、登山道の荒廃箇所を把握			-	-			屋久島山岳部保全利用協議会など	毎年 新規追加
			44	避難小屋トイレ周辺の水質	登山利用に伴い、水質が汚染されていないこと	「避難小屋トイレ周辺の水質調査」 調査項目: 水温、水量、pH、BOD、大腸菌数、全窒素、全リン、糞便性大腸菌検査 調査地: 避難小屋トイレ周辺の湧水及び表流水並びに避難小屋トイレ付近の水場		H20(秋) H24(秋)	R2	R6	R7	R8	環境省	